佐々先生の 海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方などを提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、sasa@keimei.ac.jp までお願いいたします。

啓明学園初等学校 校長　佐々 信行（さっさ のぶゆき）

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）、・ワシントン補習授業校を経て、現職。

「帰国生のいる楽しさ」

「私は大きくなったら啓明学園の先生になりたい」と言った子がいました。そのわけをきいてみたら、「世界のおいしいものが食べられるから」でした。そのとおり、帰国生がいることは、海外に住んだことがない子どもたちにとっても、とても楽しいことなのです。

啓明学園初等学校では、3 学期の初めに、アメリカとニュージーランドから 3 人の編入生を迎え、2006 年度の海外からの編入生は 31 人になりました。3 月 1 日現在で、全校児童 337 人のうち、94 人が外国で生活した経験を持つ子どもたちです。およそ 4 人に 1 人ということになります。最近は海外で生まれたり、幼いときから滞在していたりして、「帰国生」というより「移住生」とでも呼ぶ方がふさわしい子どもたちも少なくありません。

啓明学園は、もともと帰国した子どもたちのために作られた学校ですが、今は日本で生まれ育った子どもたちと海外で育った子どもたちが一緒に学ぶ場所になっています。中学校では、海外から来た生徒の割合は 3 人に 1 人、高等学校では 2 人に 1 人ぐらいになります。

海外に住んだことのない子どもたちの立場に立ってみると、このような友だちがいることは、とても幸せなことなのです。

デンマークの話（1 年生）

台湾風ぎょうざ作り（2 年生）

◆ 帰国生がいるとおもしろい

特に学期の終わりごろになると、啓明の家庭科室は忙しくなります。教室での学習が一段落し、最後の特別プログラムとして外国の食べ物体験をする学年が多いからです。海外に住んだことのある家庭のお母さん、お父さんたちがそれぞれの国の食べ物や料理を紹介してくれます。外国出身の方も少なくないので、本格的な料理教室になることもあります。食べ物を作ったり、味わったりすると、その記憶はいつまでも残ります。そして、その国の人々のことや、その土地の風景などを想像することがいっそう楽しくなり、その国がとても身近に感じられます。

児童会が主催する「世界の遊びデー」という行事があります。子どもたちがいろいろなところで楽しんでいる遊びをみんなでやってみようというイベントです。帰国生が直接体験してきた遊びのほかに、友だちや留学生、先生などに教わった遊びも加えると、かなりの数のレパートリーになります。その中から、児童会役員がいくつかを選んで、遊び方を説明できるよう準備をします。当日は、1 年生から 6 年生までが混じって果物の名前をつけた「フルーツグループ」で、遊びのステーションを回って楽しみます。世界の遊びを調べていく中で昔から伝わる日本の遊びがクローズアップされることもあります。「世界の遊びデー」で、日本の遊びのおもしろさを発見する子もいるのです。